

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-05

学校名・団体名	久慈市立久喜小学校
HPアドレス	http://www.city.kuji.iwate.jp/school/kuki-sho/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさと久喜の未来を紡ぐ「なみのと学習」

〈活動・研究の意義、目的〉

本校では、平成9年に漁業の担い手育成を目的とした「海づくり少年団」が結成され、生活科や総合的な学習の時間を活用して地元久喜浜の清掃活動や磯の生物観察の他、定置網体験や名産物である「ウニ」の収穫・殻むきをはじめ「秋鮭」の加工などの特色ある教育活動が展開されている。これら一連の活動を通して、ふるさと久喜の海の豊かさや素晴らしさを学び、誇りをもって未来の久喜を創りあげる人材を育てていくことが「なみのと学習」である。「なみのと」とは「波の音」の意味であり、久喜地区がいつまでも波の音が響き渡る穏やかで豊かな土地であってほしいという願いが込められている。

しかしながら、平成23年の東日本大震災津波による久喜地区も甚大な被害を受け、2年間にわたり「なみのと学習」も中断せざるを得なかった。子どもたちにとっては残念な時期であったが、その代償として中断している時期には、これまで当然のように取り組み、継続してきた「なみのと学習」の意義や意味を問い直す機会となった。子どもたちは、これまで行うことが当たり前と思っていた「なみのと学習」は、やはり豊かできれいな海があるからこそ行うことができる学習であることを再認識し、自分達ができる海の環境保全として「鉄炭団子」や「廃油石鹼」などの方法に取り組みながら、ふるさと久喜の復興・発展を支えようとする豊かな心情を育んでいる。

ふるさと久喜の未来を紡ぐ「なみのと学習」の展開

1 「なみのと学習」の特色

○ 「なみのと学習」にちなみ、4つの活動指針を以下のように定めている。

①なぜだろう（疑問・気づき・課題設定） ②なみつけよう（発見・問題解決・追究）
 ③のびのびと（主体的な学習態度） ④なみとびだそう（実践力・学び方）

単元3における体験活動と単元1・単元2の学習との連動を軸に「体験からの学び」「学びからの体験」という横断的な学習活動が展開できるようにしている。

時数	70時間	70時間	70時間	70時間
単元1	久喜浜お魚ランド	めざせウニ博士	漁業トレジャーハンター&ハンター	廃油石鹼PRプロジェクト発進
単元2	漁師さんのお仕事ハッケン伝	鉄炭団子わくわく大作戦開始	廃油石鹼クリーン丸久喜湾に出航	サーモンリサーチ隊出動

2 活動の具体

(1) 磯観察・クリーン活動



磯観察とクリーン活動は、磯場から大きく潮が引く「大潮の日」である6月3日（金）に実施した。年々ごみの量が減っていると感じるのは、子どもたちの清掃活動が地域にも浸透しているためと考えている。

その後は「磯観察」を行った。磯の生物の観察だけではなく、県北広域振興局の協力のもと「稚ウニ」の放流も行い、豊かな海を実感できた。

(2) 漁業体験



「なみのと学習」のメイン活動である漁業体験は7月8日（金）に実施した。3～5年生は小型船に乗って「ウニ獲り」、6年生は漁船に乗って定置網漁を体験した。定置網では、イカやトビウオ、カレイ、エイなどたくさんの種類の魚が獲れ久喜の海の豊かさを実感できた。

その後、ウニの殻むき作業を行い、焼いたウニや魚をお世話いただいた漁協の方々や保護者、子どもたち全員で味わった。

(3) 廃油石鹼作り・鉄炭団子作り



廃油石鹼と鉄炭団子は、どちらも海の水質保全のための活動である。廃油石鹼は家庭で使った油を石鹼として再利用することで、海に油を流さないようにする取組である。作った石鹼は、7月の市内「さかなまつり」で販売し、きれいな海を守るメッセージを市民に送った。

また、鉄炭団子は、使い捨てカイロに使われている鉄粉を固めて海に投じることにより、鉄イオンが発生し光合成が活性化することでウニや貝類のエサとなる海藻等の発育を促進することから取り組んでいる。子どもたちは鉄炭団子の効果や作り方を「なみのと学習」で学び、各家庭に発信することで使い捨てカイロの回収をしている。作った鉄炭団子は久喜浜の海に撒いて、次の年の磯観察で効果を確認している。

(4) 親子料理教室



海の近くに住んでいながら、魚や海産物を口にしない児童が多い実態を解消するため、地元食材の美味しさを再発見できるように親子料理教室を開催した。

フランス料理のシェフを講師に招き、地元産の秋鮭や天然アワビを、クリーム煮や肝ソースのグリルなど普段とは一味違った料理に仕上げ、素材のもつ本来の美味しさを味わうことができた。

児童や保護者からは、「いつもは食べることができなかった魚を美味しく食べられた。」「捨てると思っていた鮭の内臓を使って作ったスープはとても美味しくびっくりした。」「こんなに美味しいものがたくさんある久喜を誇りに思う。」などの感想が挙げられた。



(5) 新巻鮭づくり



久喜漁港の秋から冬にかけて大きな水揚げ量を占める秋鮭の加工方法を体験することで、地元の漁家の作業内容や思い・願いについて学びを深めている。

作業の前に、地元の漁業組合の方から東日本大震災津波の影響で回遊から戻る鮭の漁が減少していることを教えていただき、貴重な魚であることや久喜にとって大事な魚であることを実感していた。

漁業女性部の協力のもと、一人一尾の鮭の内臓を取り出し、塩漬けにする加工を行った。その後、1週間ほど塩に馴染ませ、水洗いをして、さらに1週間昇降口に吊るし風に当てて身を引き締めた。

冬の保存食として地域で長く食べられてきた新巻鮭の加工を通して、地元で獲れる魚に対する漁師さんの思いを肌で感じていた。

(6) 防災教育学習会

6月1日(水)に小袖小学校と合同で、久喜浜に建設されている防潮堤や野田村の震災復興事業の取組の様子を見学する防災教育学習会を行った。

工事担当者からは、「どんなに防潮堤が立派でも、完全に津波を防ぐことはできないので、過信することなく『自分の命は自分で守る』ことを忘れないでほしい。」と貴重なメッセージをいただいた。



3 まとめ

海を知り教訓伝える

久喜市宇部町
久喜小6年
藤井 遊翔君
震災発生時、避難した高台から見下ろす津波の光景が今でも忘れられない。津波の仕組みを知りたく勉強した。一時期怖かった海だったが、今は知れば知るほど海が好きになりました。

「海を知れば知るほど海が好きになりました。震災を知りたい世代に伝えたい。」

海を知り教訓伝える

久喜小6年 藤井 遊翔君

題字 山下文男さん

平成 28 年 6 月 3 日 岩手日報

平成9年に宮古市で行われた「全国豊かな海づくり大会」の開催を機に、本校に「海づくり少年団」が結成された。また、平成12年に総合的な学習の時間が創設されたことを受け、地元の海について理解を進める「なみのと学習」が編成された。以来、「海づくり少年団」活動は約20年間、「なみのと学習」は約17年間にわたり、ふるさと久喜の海の豊かさや基幹産業の漁業について学習を深めてきた。

幼児の頃に東日本大震災津波を目撃し「海は怖いもの」と思っていた児童が、この「なみのと学習」を通して、海が好きになり、将来は漁師を目指したいと話している。この児童だけではなく、本校児童全員が「なみのと学習」を通して、地元の海の素晴らしさを再発見・再認識し、故郷久喜を誇りに思う心情と豊かな海を守ろうとする実践力を確かに育んでいる。